

かながわ人生100歳時代ネットワーク

「この指とまれプロジェクト」

地域共生社会研究会

～合理的配慮に向けた発信力向上トライアル～

2022年4月27日

横浜移動サービス協議会

①実施事業の概要

【プロジェクトのねらい】

合理的配慮を受けやすくする取組み → 障がい当事者の発信力向上

- 1) 発語・発話力の向上(ストレス／緊張を軽減し、発信を積極化)
- 2) 伝える力の強化(できること/できないことを明確に伝える力)
- 3) 「助けて」「私の生き方を理解して」と言えるヘルパー、支援者探しのきっかけ作り

【実施内容】

1. ヒヤリング調査 2021年10～12月
対象:障がい当事者(3名)、支援スタッフ(4名)
2. 試行(発信力向上に向けた方策の実行可能性について) 2021年11～12月
 - ・茶会イベント(当会主催のお出かけ企画)
 - ・花時計植栽・メンテナンス活動

《マッチング団体》

- ・認定NPO法人 若葉台(理事長 白岩 正明氏)
- ・一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ(代表理事 手塚 明美氏)
- ・鈴木美帆税理士事務所(代表 鈴木 美帆氏)

②事業の効果（成果）

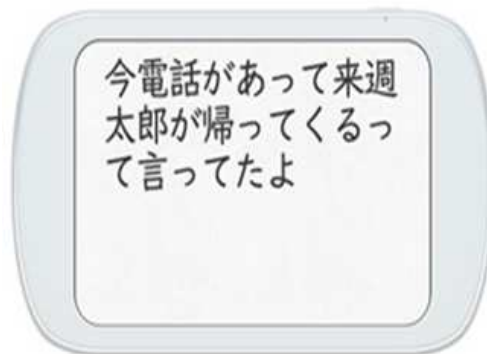
1.障がい当事者のコミュニケーション力向上のための試行を行うことができた。

ミニホワイトボードの活用



AIボイス筆談機

タブレット



コンパクト



ipadの活用



その他

絵カード

文字盤

等

2.バリアフリーではない場所の利用のための試行

車椅子が使用できない場所への移動

試行例) 車椅子で畳敷の茶室に上がれないので籐椅子 ⇒
に移動し、そのまま毛氈の上に担ぎ上げた。



3.当事者がプロジェクトワークに参加することによって発信力向上に自信をもって取り組めるようになった。

参加当初： 発語・発話力の不十分さ→ 緊張→ 意思表示を躊躇

参加後： 他の参加者とともに課題共有、実行可能性の試行→ 発信力向上に向け自信

③事業全体を通しての感想

○障がい当事者を含むプロジェクトワークでの議論によって、「共生社会」を実現するために、「合理的配慮」への対応が非常に重要との理解が進んだ。

○当事者の発信力向上における問題＝壁として、ヘルパーとの関係で生ずるストレスが影響するということがわかった。

(ストレスの要因としては、当事者の行動時間やスケジュールを調整する上でのゆき違い、価値観や生き方や仕事への姿勢で共感し合う難しさなどがあげられる。)

当事者はヘルパーになってほしい人(候補者)を自分でも探し、その人たちとのよい関係づくりを日頃からこころがけるようにする。それがヘルパー問題の解決につながっていくだろう。

○マッチング団体からのコメント

- ・報告は貴重な調査に基づいて行われた。課題への取組みにおける熱い想いが伝わってきた。
- ・「合理的配慮」は難しい問題と理解している。次年度の研修に期待している。

○マッチング団体との広い視野からの交流、連携を継続していきたい。